

伝道者の書 4章

- 1 私は再び、日の下で行われる一切の虐げを見た。見よ、虐げられている者たちの涙を。しかし、彼らには慰める者がいない。彼らを虐げる者たちが権力をふるう。しかし、彼らには慰める者がいない。
- 2 いのちがあって、生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人に、私は祝いを申し上げる。
- 3 また、この両者よりもっと良いのは、今までに存在しなかった者、日の下で行われる悪いわざを見なかった者だ。
- 4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。
- 5 愚かな者は腕組みをし、自分の身を食いつぶす。
- 6 片手に安らかさを満たすことは、両手に労苦を満たして風を追うのにまさる。
- 7 私は再び、日の下で空しいことを見た。
- 8 ひとりぼっちで、仲間もなく、子も兄弟もいない人がいる。それでも彼の一切の労苦には終わりがなく、その目は富を求めて飽くことがない。そして「私はだれのために労苦し、楽しみもなく自分を犠牲にしているのか」とも言わない。これもまた空しく、辛い営みだ。
- 9 二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。
- 10 どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。
- 11 また、二人が一緒に寝ると温かくなる。一人ではどうして温かくなるだろうか。
- 12 一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ燃りの糸は簡単には切れない。
- 13 貧しくても知恵のある若者は、忠告を受け入れなくなった年老いた愚かな王にまさる。
- 14 そのような若者は、牢獄から出て王になる。たとえ、その王国で貧しく生まれた者であっても。
- 15 私は見た。日の下を歩む生きている者がみな、王に代わって立つ、後継の若者の側につくのを。
- 16 その民すべてには終わりがなく、彼を先にして続く人々には、後に来るその者たちも、後継の者を喜ばない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

それでも人生にイエスと言う

伝道者の書4章

I. 人生の不条理

1. 虐げる者たちによる搾取

進化論 → 帝国主義

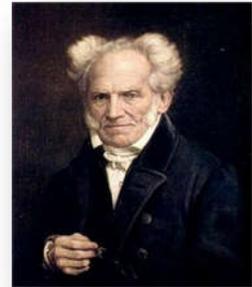
『働けど働けど 猶 わが生活(くらし) 楽にならざり ぢつと手を見る』(石川啄木)
『蟹工船』(小林多喜二)

2. すでに死んだ人の方が、生きている人よりましである。もっといいのは、この世に生まれてこなかったこと(なんという厭世観！)

「この世界は考えうるかぎりの最悪の世界だ」(ショーペンハウエル)

3. キーワード「日の下」(1,3 節)

右か左か、ではなく、上か下か (保守か革新か、ではなく、創造者か被造物か)



ショーペンハウエル
(1788~1860)

II. 空しい競争

自分の利益追求 → 不幸のレシピ

1. 労苦も成功もねたみが根源
2. 労苦をしない生き方(「腕組み」) = ゆるやかな自殺(「自分の身を食いつぶす」)
3. 多くを望まない生き方のすすめ(「片手に安らかさを満たす」)

天職(人の役に立つこと) → 満足

III. 人との関わり

1. 自分だけのために生きる空しさ(どんなに富があっても)

キーワード「日の下」(7 節)

2. 二人は一人にまざる

「いつくしみ深き友なるイエスは」
What a Friend we have in Jesus
ジョゼフ・スクライヴェン (婚約者を二回喪う)



ジョゼフ・スクライヴェン
(1820~1866)

3. 三つ撚の糸は簡単に切れない

「睦まじき仲も 主在さずば / 破れ果つること なしとはせず
あり得ぬことのみ ある浮世に/ ひとり変わらぬは イエス君なり」 中田羽後

IV. 名声も束の間

キーワード「日の下」(15 節)

V. それでも人生にイエスと言う

1. ラヴィ・ザカライアス

ヨハネ 14 : 19 「わたしが生きるの、
あなたがたも生きるからである。」
Because I live, you will live also.



2. ヴィクトール・フランクル

(1) アウシュビッツ収容所のホロコーストを生き延びる。「119104」という番号
(2) 「スープを飲ませる価値もない」 死者の持ち物に群がる囚人 無感動 それでも生きる意味はあるのか

① 創造価値 ② 体験価値 ③ 態度価値

「人生から何をわれわれは期待できるかが問題なのではなく、人生からわれわれが何を問われているかが問題。そしてその問いに正しく応答しなければならない。」



桶職

内村鑑三(1914)

我は唯(ただ)桶を作る事を知る、
其他(そのほか)の事を知らない、
政治を知らない宗教を知らない、
唯善き桶を作る事を知る。

我は我(わが)桶を売らんとて外に行かない、
人は我桶を買わんとて我許(もと)に来る、
我は人の我に就いて知らんことを求めない

我は唯家にありて強き善き桶を作る。
月は満ちて又欠ける、
歳は去りて又来たる、
世は変り行くも我は変らない、
我は家に在りて善き桶を作る。

我は政治の故を以て人と争はない、
我宗教を人に強ひんと為ない、
我は唯善き桶を作りて、
独立(たち)て甚だ安泰(やすらか)である。